



学校図書館だより

2月号

令和3年2月10日
柏市立富勢中学校
柏市学校図書館指導員
岩瀬 瞳

朝の寒さは吐く息も凍りそうなほどですが、少しずつ日が伸び始め、梅の花が開き、メジロが花の蜜を求めて飛び姿も見られるようになりました。二月に降り注ぐ光は、どの季節よりも明るく透き通って感じられます。ロシアでは長い冬を越えて徐々に日が長く、空が明るくなっていく二月を「光の春」と呼ぶそうです。すてきな響きですね。それぞれが向き合う試練は異なりますが、歓びの春にむかって光の春の中を進んでいきましょう。学校図書館も、みなさんがほっとひと息つくことのできる場所になれるよう努力を続けていきたいと思ひます。



図書館からのお知らせ



新着図書貸出中！

3学期に入った新着図書が貸出できます。柏市ビブリオバトルで紹介された本も入っていますよ。部活動に関連した図書も入っています。12月にリクエストをとった本も一部入っていますが、大部分はもうしばらくお待ちください。近日中に入る予定です。（図書館入り口等にお知らせを貼りますので、時々覗いてみて下さいね。）

三年生の図書館利用期間

3年生の貸し出しは

2月26日（金）までです。

返却は

3月9日（火）までにお願

いします。図書室での利用は可能ですから、引き続きご利用くださいね。

今月のおすすめ



『希望、きこえる？』

ルワンダのラジオに子どもの歌が流れた日』
榮谷明子 著 汐文社 〈NDC699〉

ルワンダ共和国はアフリカ大陸の中央に位置する国です。ユニセフの職員としてルワンダへ赴任してきた著者の榮谷さんは、この国に生きる人々のために自分は何が出来るかを考えました。歴史資料を調べ、人々に話を聞きに行き、1994年の内戦で多くの犠牲を出したルワンダでは、今社会を支え、子育てにかかわる大人の多くが孤児として育ってきたことを知ります。子ども時代を過酷な状況の中で過ごし、大切なものを奪われてしまった人々。失われつつあるルワンダの文化を、幼い子どもたちを育む場所を取り戻したい！榮谷さんはルワンダ人の仲間と協力して子どもたちのためのラジオ番組を作ることになりました。

やさしいことば、あたたかいことばに包まれながら社会とつながる。読み終えた後、きっとあなたの中にも希望がきこえてくるはずですよ。

『少年口伝隊一九四五』

井上ひさし 著 講談社 〈NDC538〉

口伝隊とは、原爆投下直後の広島、新聞など到底印刷できなかった時に、口頭でニュースを伝えた人たちのことです。著者の井上ひさしさんは戦争がどれほど残酷で人を狂わせるのかを書き続けた小説家であり、劇作家でした。人間はもっと楽しく、もっとまっすぐに、他人を不幸にすることなく生れるはずだ！と言葉を紡ぎ続けました。

「戦争」「災害」「放射能」の中で懸命に生きようとした少年たちを描いた朗読劇として書かれた本書でも、事実の悲惨さや被害の大きさが伝えられながらも、その事実と事実のあいだにある人間の物語が語られています。平易に見える言葉の奥に積み重ねられている歴史の現実と、そこから立ち上ってくる物語の深さ。「なくなった人たちは たくさんのことを知っています。」その思いを受け取ることができるのは、生きている私であり、あなたです。